

利水改善グループ「営農情報」 令和3年2月1日 第3号

発行：群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会

編集：群馬用水土地改良区



利水改善G発表者を訪ねて

群馬用水でナシ栽培

高崎市本郷町の五十嵐さん

今号では、第18回群馬用水地域利水改善グループ体験発表会（平成3年2月16日、群馬県農協ビル）で、「群馬用水利用によるナシ栽培」と題して発表された、高崎市本郷町の五十嵐直志さんを紹介します。

五十嵐さんは、昭和60年から本格的にナシ栽培を始め、現在は1.2haのナシ栽培（写真上、品種は愛宕、9月撮影）に取り組んでいます。

主要品種は、幸水、豊水、二十世紀、にっこり、愛宕です。出荷は久留馬総合選果場で光センサーを使用した共選共販による市場出荷と直売です。

五十嵐さんは、群馬県なし品評会で最高賞の知事賞を、久留馬総合選果場幸水品評会においても最高賞の群馬用水土地改良区理事長賞を受賞するなど高

品質のナシを生産しています。

訪問した日は、五十嵐夫妻が丁度ナシ（品種は愛宕）の収穫作業中（写真右下、11月撮影）で、収穫したナシの選別作業を行っていました。

ナシ栽培に群馬用水を有効活用

ナシ栽培ほ場への灌水は、その年の天候を考慮して適宜行っています。また、ナシ栽培にとって病虫害防除は重要な管理作業で、スピードスプレーヤーで行う薬剤散布において、群馬用水は安定的に利用でき、大変助かっているそうです。

五十嵐さんは、消費者に安心・安全で、美味しいナシを提供するため、日々頑張っています。

ごあいさつ



群馬用水地域利水改善グループ
連絡協議会

会長 坂本 忠

当協議会の運営につきましては、日頃から会員の皆さんより多大なご協力をいただき厚くお礼申し上げます。また、何かとお忙しい中ご支援、ご指導をいただいている県、市町村、JA、水資源機構をはじめとする関係各位に心より感謝申し上げます。

ご承知のように、昨年1月16日に、国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから、丁度1年になりました。私達にとって、新型コロナウイルスに翻弄された1年間だったように思います。現在も感染者は増加傾向にあり、収束の兆しは見えません。このような中で、大変残念ですが、当協議会や単位グループが予定していた多くの行事が中止されました。

さて、当協議会は昭和47年8月、グループ相互の連絡協調を密にし、水利用による農業技術体系を確立するとともに、農業及び生活の合理化を推進し、地域の振興に役立てることを目的に設立されてから、来年は50年の節目を迎えます。これからも、この目的を達成するために、当協議会の充実強化に努めたいと思います。

終わりに、本紙の発行にあたり、取材協力いただいた会員の皆さん、編集にご尽力された群馬用水土地改良区の担当者の方々に厚くお礼申し上げます。



群馬用水土地改良区

理事長 後閑 千代壽

群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会の皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、当土地改良区の業務運営につきましては、ご理解とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

さて、前理事長の平田英勝氏が健康上の理由により、退任されたことに伴い、昨年8月に開催された理事会において、理事長という大役を仰せつかりました。誠心誠意努めますので、前理事長同様のご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

本年度は、昨年から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利水改善グループ員の皆さんも大変ご苦労されていることとお察し致します。同協議会にとっても、計画していた行事が中止されるなど、大きな影響を受けているとお聞きしております。感染拡大が、一日も早く収束することを願うばかりです。

群馬用水土地改良区では、今後とも用水の安定供給に全力を注いでまいり所存ですので、引き続き利水改善グループの皆さんのご協力をお願いいたします。

結びに、地域農業の更なる飛躍と群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会の益々の発展を祈念し、あいさつといたします。

群馬用水地域営農関係情報交換会を開催

指導機関から営農関係情報 8 課題提供される

群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会の主催による「令和2年度群馬用水地域営農関係情報交換会」を令和2年7月14日に、当連絡協議会の通常総会に引き続き、群馬用水土地改良区会議室で開催しました。当日は役員及び関係者35人が出席し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で開催しました。

本年度は、群馬用水関係指導機関の中部及び西部農業事務所普及指導課、渋川及び桐生地区農業指導センター、県農業技術センター、JA全農ぐんま営農支援部から8課題の提供がありました。内訳は共通が1課題、野菜が5課題、果樹が2課題でした（下表参照）。

どの課題も当管内の農業と関わりが深く、大変有意義な交換会となりました。



[写真右上及び右下]

提供課題について説明する管内指導機関の関係者と熱心に聞く出席者（群馬用水土地改良区で）

令和2年度 群馬用水地域営農関係情報交換会 提供課題一覧表

(出席者35人)

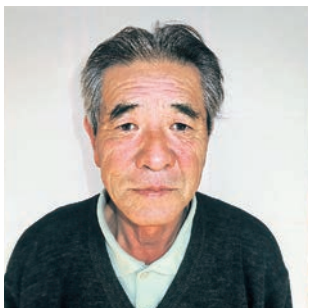
No.	提供課題名	提供指導機関
1	長ネギ防鳥ネット利用による強風対策	中部農業事務所普及指導課
2	イチゴ育苗期の肥培管理が花芽分化及び頂花房着果に及ぼす影響の検討	渋川地区農業指導センター
3	天敵製剤設置したナシほ場でのハダニ類と天敵発生状況調査	西部農業事務所普及指導課
4	露地ナスにおける下草の栽植効果の検討	西部農業事務所普及指導課
5	GAP個別訪問で認識新たに ～市場や消費者から選ばれる産地となるために～	桐生地区農業指導センター
6	ウメ「白加賀」の陥没症発生対策について	群馬県農業技術センター
7	夏秋キャベツ栽培における二段局所施肥に対応した新型三兼ライムソワの開発	群馬県農業技術センター
8	JA全農ぐんま園芸作物生産実証農場を活用した地域生産振興	JA全農ぐんま営農支援部

榛東村下仁田ネギ生産組合

群馬用水地域で下仁田ネギの産地化に取り組む



初代組合長 富澤善一さん



第2代組合長 飯塚永一さん

北群馬郡榛東村の下仁田ネギは、平成2年に導入され、その後平成6年に設立された榛東村下仁田ネギ生産組合が中心となって産地化に取り組み、現在26人の生産者が約8ha栽培しています。下仁田ネギは、同村内群馬用水地域の主要品目の一つになっており、今後より一層の発展が期待されます。

榛東村の下仁田ネギ生産は、同村広馬場の富澤善一さんが平成2年に試験的に導入し、平成4年に村内の仲間3人で約50aまで生産拡大しました。そして、平成6年10月に榛東村下仁田ネギ生産組合を設立し、初代組合長に富澤善一さんが選出され、J A北群渋川が事務局を担当して本格的な活動が始まりました。

渋川農業改良普及所（現渋川地区農業指導センター）、村役場やJ A関係者と試行錯誤を繰り返しながら春播き無仮植栽培を定着させ、作柄も安定するようになり、市場の評価も高まりました（写真右上、右下）。

そして、平成10年度群馬用水地域優良団体として、平成11年2月に表彰されました。また、富澤善一さんは、設立当初から平成28年度まで組合長を務め、組織の充実と発展に多大な貢献をされました。併せて榛東村における群馬用水地域の主要品目として下仁田ネギの産地化に尽力されました。平成24年に富澤さんは、その功績が認められて、群馬県総合表彰を受けました。

平成29年度からは飯塚永一さんが第2代組合長に就任し、群馬用水地域において、下仁田ネギのより一層の産地化に取り組んでいます。



下仁田ネギの1回植えが定着

下仁田ネギは、通称殿様ネギとも呼ばれ全国的に知られています。非分けつ性の1本ネギで、生では辛みが強く薬味には適しません。煮たり焼いたりして加熱することにより、とろけるような舌ざわりと上品な甘みが口の中に広がります。

下仁田ネギは、秋に種子を播き、仮植及び定植の二度移植作業をするのが一般的ですが、同組合の栽培体系は、下図のように春播き無仮植栽培（1回植え）で行っています。この栽培体系は、作業の省力化にもなり、現在は地域に定着しています。

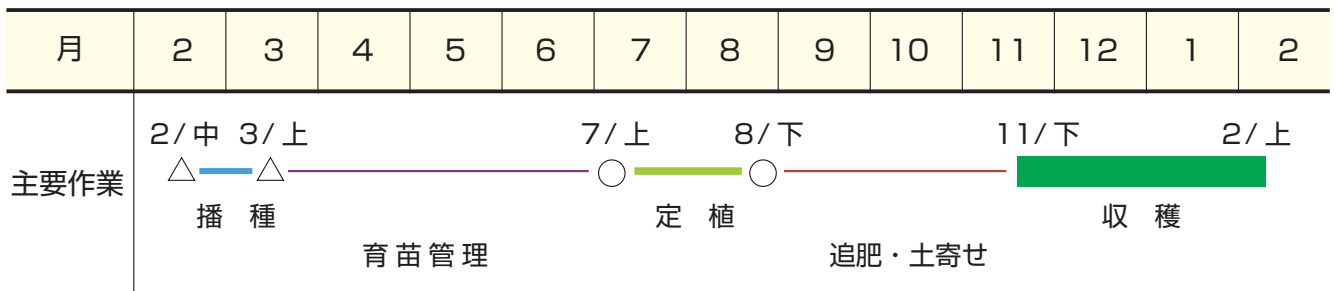


下仁田ネギ立毛共進会は全組合員参加で技術の高位平準化を図る

当組合では、毎年開催する下仁田ネギ立毛共進会（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）において、原則全組合員を対象に開催しており、当日は現地研究会を兼ねて全組合員が審査会に同行しています（写真右上）。したがって、組合設立当初は栽培技術の個人差がありましたが、立毛共進会（兼現地研究会）開催の成果により、年々改善され、高位平準化につながっています。

なお、下仁田ネギ立毛共進会の最近5年間の上位入賞者は下表名簿のとおりです。

榛東村における下仁田ネギの作付け体系（春播き無仮植栽培）



最近5年間の下仁田ネギ立毛共進会上位入賞者名簿

(敬称略)

賞名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
最優秀賞	富澤 善一	飯塚 永一	富澤 善一	飯塚 永一	萩原 貞夫
優秀賞	広橋 隆一	富澤 善一	飯塚 永一	萩原 貞夫	飯塚 永一
優良賞	早川 茂雄	小野 関 守	萩原 貞夫	岩田 憲司	善養寺 徳男

※最優秀賞には、群馬用水土地改良区理事長賞、優秀賞には、群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会長賞、優良賞には、群馬用水営農推進協議会長賞がそれぞれ授与されています。

※令和2年度下仁田ネギ立毛共進会（兼現地研究会）の開催については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止されました。

農地の貸借と再生に関する群馬県農業公社の取組

1 農地の貸し借りをお手伝い（農地中間管理事業）

（公財）群馬県農業公社では、群馬県知事より農地中間管理機構の指定を受け、市町村・JAなどと連携協力しながら農地中間管理事業を行っています。

農地中間管理事業とは、農地中間管理機構（群馬県農業公社）が、農地を貸したい農家（出し手）から借り受け、できるだけまとまった形で担い手（受け手）に貸し付ける事業で、活用メリットは、以下のとおりです。

出し手のメリット	1 公的機関だから安心！ 貸し付けた農地は、しっかりと選定基準の下意欲ある地域の担い手へ転貸されます。賃料は農業公社から確実に振り込まれます。	受け手のメリット	5 賃料支払いや契約事務が楽に！ 複数の地権者から農地を借りる場合も、契約や賃料の支払い先は農業公社のみです。
	2 農地は返却されます 農地は貸付期間終了後、必ず返ってきます。（希望に応じて、契約の延長も可能です。）		6 農地の集約化をサポートします 地域の話合いに基づき、分散した農地を交換してまとめます。
	3 受け手とマッチングします 万が一受け手が耕作できなくなった場合、農業公社が新しい受け手を探します。		7 協力金が支払われます まとめて農地を貸し付けた地域には、協力金が交付されます。
	4 税金の優遇措置が適用されます 所有するすべての農地を10年以上貸し付けると、一定期間固定資産税が半額になります。		8 農地の条件整備ができます 最大農家負担ゼロで基盤整備事業を実施できます。 ※ 各種支援措置には要件があります。

2 農地の再生をお手伝い（農用地等利活用促進受託事業）

（公財）群馬県農業公社では、耕作放棄地の再生等に対する作業受託料金の見積り等を無料で行っています。

農地を再生して貸したい方、遊休農地や狭小農地を集約して規模拡大を図りたい方、農地中間管理事業の活用をご検討中の方等がおられましたら、お気軽にご相談ください。

石礫破碎		料金 10アールあたり 28,800円	雑草処理		料金 10アールあたり 11,500円
心土破碎・弾丸噴霧		料金 10アールあたり 4,400円	畦畔除去		料金 メーターあたり 225円 <small>廃棄物処理等の希望は、別途応談。</small>
耕起		料金 10アールあたり 6,800円	均平作業		料金 10アールあたり 19,600円
耕うん		料金 10アールあたり 9,000円 <small>回数変更の希望は、別途応談。</small>	機械輸送費		料金 10km以内の往復 9,000円 <small>※10km増す毎に9,000円増</small>

注）料金は、オペレーター、諸経費込の基準価格（消費税抜き）です。現場条件によって価格が変動する可能性がありますので、詳細は現地を調査し、お見積もりさせていただきます。

※お問い合わせは 公益財団法人 群馬県農業公社へ TEL 027-251-1220

単位利水改善グループ関係の表彰事業

令和2年（1月～12月）に開催された、群馬用水地域の単位利水改善グループ関係の表彰事業は3件ありました。そこで、群馬用水土地改良区に関する受賞者を紹介します。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止された表彰事業が3件ありました。

第44回子持園芸組合苺共励会

イチゴ立毛共励会の審査会は、令和2年1月7日に開催され（写真右上）、出品された11栽培ほ場を対象に行われました。群馬用水土地改良区理事長賞及び群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会長賞は、生方俊夫さん（渋川市中郷）が、群馬用水営農推進協議会長賞は後藤恒さん（渋川市上白井）がそれぞれ受賞されました。



第23回みさと地区手作り梅干しコンクール

手作り梅干しコンクールの審査会は、令和2年1月21日、JAはぐくみ東部営農センター会議室で開催され、出品された66点を対象に行われました。群馬用水土地改良区理事長賞は、永井清江さん（高崎市箕郷町）が、群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会長賞は、島方勝代さん（高崎市箕郷町）が、群馬用水営農推進協議会長賞は、塩原かほるさん（高崎市箕郷町）がそれぞれ受賞されました。



第31回久留馬総合選果場「幸水」品評会

ナシ（幸水）の審査会は、令和2年8月18日、久留馬総合選果場事務所等で開催され（写真右中、右下）、出品された19点を対象に審査が行われました。群馬用水土地改良区理事長賞は、長谷川美由紀さん（高崎市十文字町）が、群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会長賞は、吉田清隆さん（高崎市本郷町）が、群馬用水営農推進協議会長賞は、清水忍さん（高崎市宮沢町）がそれぞれ受賞されました。



令和2年度 群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会 役員名簿

役職名	氏名	所属グループ	役職名	氏名	所属グループ
会長	坂本 忠	JA前橋市粕川支所露地生産部会 グリーン21	委員	森田 初夫	赤城橘雨除けほうれん草組合
副会長	皆川 孝	JA北群渋川ねぎ部会	委員	楯 誠司	赤城橘ねぎ部会
副会長	高橋 正好	JAはぐくみねぎ部会	委員	楯 正人	赤城橘ソ菜組合
委員	小野里 伸哉	芳賀花・植木園芸組合	委員	萩原 勝吉	赤城橘椎茸組合
委員	狩野 富一	JA前橋市富士見支所園芸協議会	委員	清水 久義	久留馬選果場梨部
委員	松村 勝幸	JA前橋市粕川支所露地生産部会	委員	島方 当己夫	JAはぐくみみさと梅部会
委員	小池 勤	群馬用水上ノ原組合	委員	岡本 昭夫	JAはぐくみ東部園芸出荷部会
委員	岸 勝吉	JA北群渋川にら部会	監事	森田 幸道	赤城橘ソ菜組合
委員	飯塚 永一	JA北群渋川ねぎ部会 榛東村下仁田ネギ生産組合	監事	池田 一美	子持園芸組合
委員	南 博	榛東村園芸生産組合	参与	小和瀬 眞一	JAはぐくみみさと梅部会
委員	狩野 由宏	北橘花卉園芸組合	顧問	後閑 千代壽	群馬用水土地改良区(理事長)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

利水改善G体験発表会、記念講演会は中止に

ご承知のように、昨年から続いている新型コロナウイルス感染症は現在も増加傾向にあり、一向に収束の兆しが見えません。このような状況の中で、多人数を集めた行事の開催は困難との判断により、誠に残念ですが今年度予定していた「群馬用水地域利水改善グループ体験発表会」及び「記念講演会」は中止することに決定しました。会員並びに関係者の皆さんにご理解頂くとともに、一日も早い収束を祈りたいと思います。

来年は利水改善グループ設立50周年に

地域とともに生きる群馬用水の歩みと営農活動①

群馬用水の水源となっている矢木沢ダムが、昭和42年8月に完成してから平成29年に50年を経過しました。また、独立行政法人水資源機構群馬用水管理所が、幹線水路の管理を昭和45年4月に開始してから昨年（令和2年）50周年を迎えました。そして、群馬用水運営対策協議会及び群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会が、昭和47年8月に発足してから来年（令和4年）50周年を迎えます。また、群馬用水地域利水改善グループ体験発表会も現在47回で、まもなく50回を迎えます。

そこで、今号よりシリーズで群馬用水の歩みと営農活動について、概要を紹介します。今号では、群馬用水の主な出来事について下表をご覧ください。

群馬用水の主な出来事（昭和30年以降）

期 日	主な出来事
昭和30年 4月	国営土地改良事業直轄地区として群馬用水計画調査を開始
昭和34年 4月	群馬用水計画樹立
昭和38年 4月	群馬用水土地改良区設立
昭和39年 3月	水資源開発公団群馬用水建設所発足
昭和41年 7月	県営群馬用水事業起工式開催（県営スポーツセンター）
昭和42年 8月	矢木沢ダム完成
昭和45年 4月	水資源開発公団群馬用水管理所発足
9月	米の生産調整に関する通達により開田計画が不可能に
11月	群馬用水土地改良区の下部組織として17管理区設置
昭和47年 8月	群馬用水運営対策協議会、群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会が発足
昭和49年 2月	第1回利水改善グループ体験発表会を開催
昭和53年12月	群馬用水営農推進協議会発足
昭和59年10月	第1回群馬用水まつり開催
昭和60年 3月	群馬用水土地改良区新庁舎完成
昭和61年 3月	群馬用水土地改良区が群馬県朝日農業賞受賞
昭和62年 8月	群馬用水地域先進地留学生連絡協議会発足
平成2年 7月	群馬用水地域利水改善グループ連絡協議会女性部発足
平成8年 3月	群馬用水土地改良区が農林水産大臣賞を受賞
平成22年 3月	群馬用水施設緊急改築事業竣工
平成31年 3月	群馬用水緊急改築事業（有馬トンネル）竣工

●●● あとがき ●●●

会員の皆さんには、日頃から利水改善グループの活動についてご協力頂き、誠に有り難うございます。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止になった事業が多く残念でした。恒例の体験発表会、記念講演会も中止になりました。

さて、利水改善グループは昭和47年8月に発足してから来年（令和4年）50周年の節目を迎えます。これも、会員の皆さんの努力と関係機関や関係者の方々からのご支援のお陰だと思えます。

今号では、単位グループの紹介や県農業公社の協力を得て関係記事を掲載しました。

これからも紙面の充実に努めたいと思えますので、皆さんのご意見をお聞かせください。

（事務局 町田）